

## 2025\_0113 「暮れゆく浅間の1時間 (動画)」 日々の理科 3812号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

浅間山は「常時監視」されている、日本屈指の活火山です。2004年と2009年に目立った噴火を起こしていますが、それ以外は比較的平穏な状態が続いています。しかし山頂からは、ほぼ365日白煙があがっています。あの「白煙」はよく「噴煙」と表現されますが、それは誤りです。

「噴煙」というのは、火山灰、火山礫(れき)などの「固体の噴出物(火山碎屑物)」が混ざったもので、火口まで達したマグマが直接固体化したものや、もともと火口底や火道にあった岩石が吹き飛ばされたものを指します。これらが火口壁を越えた場合を「噴火」と呼びます。従って、日常的に見られる浅間山の白煙は、「噴煙」ではなく「噴気」と呼ぶのが正しいです。「噴気」は、火山ガス(二酸化硫黄や硫化水素)と水蒸気、それに水蒸気が凝結して可視化された水滴などで構成されています。温泉地の源泉に見られる白煙とほぼ同じものです。

夕暮れ時の浅間は、その白煙もまた茜色にそまります。この日は快晴で、暮れゆく浅間山を東京から遠隔観望できました。後半は月夜になり、浅間が真っ白に写っています。いくつかの恒星の動きも観察できました。

(2025年1月中旬/北軽井沢/東京から遠隔観測)

